

第4回 二宮町子ども・子育て会議 会議録

会議の概要

開催日時		平成26年12月11日（木）10時00分から12時05分まで
開催場所		二宮町町民センター 2Aクラブ室
出席者	委員	露木委員、内城委員、山下委員、森本委員、浜田委員、水島委員、林委員、鈴木委員、三柳委員、本間委員、正戸委員、井出委員
	事務局	諸星子育て担当部長、松本子ども育成課長、神保子育て支援班長、生井主査
欠席委員		中村委員、本荘委員、堀尾委員
傍聴者		5名
議題		<ul style="list-style-type: none"> (1) 子ども・子育て支援事業計画の修正素案について (2) 子ども・子育て支援事業計画の概要版（案）のイメージについて (3) 保育料について (4) その他
配付資料		<p>会議次第</p> <p>資料1 二宮町子ども・子育て支援事業計画 平成27年度～平成31年度（修正素案）</p> <p>資料2 二宮町子ども・子育て支援事業計画 概要版（案）平成27年度～平成31年度（原案）</p> <p>資料3-1 利用者負担について</p> <p>資料3-2 利用者負担比較表</p> <p>資料4 子ども・子育て支援新制度作業スケジュール</p>

議事要旨

発言者	発言要旨
1	開会
2	あいさつ
町長	教育現場で長く経験を積まれた方、現在子育て真最中の保護者の方々によって会議を重ねて二宮町の子ども・子育て支援を進めていくうえで重要な計画がほぼ出来上がってきているかと思う。今回委員の皆さまにつくっていただく計画を基に、子育て世代に選られる町を目指し、政策を推進・実行していきたいと考えている。今後ともよろしくお願ひしたい。
会長	前回の第3回会議では、形になってきた素案に対しての審議をしていただいた。今回の第4回会議はこの計画に魂を吹き込むことだと考えるので、より一層のご協力をお願ひしたい。
3	議事
(1) 子ども・子育て支援事業計画の修正素案について	
会長	まず、第1章から第3章の範囲でご質問はあるか。会議で出された意見はほぼ修正されたと思う。新たに気付いた点や感想でも構わないので、ご意見をいただきたい。
委員	前回会議で色々言ってしまう、修正が大丈夫だろうかと思っていたが、しっかりまとめてもらえたと思う。
会長	会議回数は少ないが、長い時間をかけて内容を検討してきた。会議資料も事前に配布され、しっかりと確認されていると思うので、ご意見をいただき、今後更にいいものにしていきたいと思う。例えば、計画の表紙の絵への期待感も込めて。
事務局	第3回会議にて、28ページ基本目標1に「のびのび」とあるが、のびのび感が伝わってこないというご意見をいただいた。事務局内で再度検討し、基本目標4「【みんなで】子どもの心身の健やかな成長のための教育環境の整備」にある「みんなで」の方が基本目標1の地域の子育て支援にマッチし、「のびのび」は基本目標4の健やかな成長のための環境整備にあったキャッチフレーズではないかという話になった。ここで基本目標1及び4の「のびのび」と「みんなで」の入れ替えを提案させていただきたいがいかがか。
会長	基本理念が「みんなで」と始まっているので、今回の提案でもよいのではないかと思う。
委員	確かに「地域」と「みんなで」というイメージがつながるので、あっていると思う。
委員	「のびのび」という表現は誤解される恐れもあるのではないか。例えば、自己中心的な子、相手の子どものことを無視して自分の思うように振る舞うような「のびのび」な子では社会生活上問題もあると思う。「のびやか」という表現ではどうか。

発言者	発言要旨
委員	言葉の使い方によっては都合のいい解釈をすることで社会を壊すことにもなると考える。しなやか感のある「のびやか」であれば広い意味でも誤解が少ないのではないか。
会長	普段教育に携わっている委員からのご意見でしたが、「のびのび」という言葉が与える印象について、日頃お感じになるところがあるのだと思う。
事務局	言葉は難しいと感じるが、「のびやか」はいい言葉だと思う。「のびのび」と基本的には同じ言葉ではあるが、特に基本目標4は教育分野でもあり、適当な文言だと感じた。
会長	提案があったということで、まずは言葉の意味を調べて再検討をしていただきたい。
副会長	基本目標4のキャッチフレーズは「のびのび」でも「のびやか」でもかまわないが、どちらの場合でも、基本目標の内容のどの部分を表すのかイメージしづらい。
委員	「はぐくむ」という言葉でもよい。
副会長	まさに「はぐくむ」というような言葉の方が内容とマッチするのではないか。
会長	確かに「はぐくむ」ということだが、育み方として「のびのび」「のびやか」にやっといこうということだと思う。素案の前の骨子案の段階では基本目標にこのようなキャッチフレーズはなかったが、こうしてキャッチフレーズを入れて作成していただくと、一般の方が見てもかなり基本目標が分かりやすくなったと思う。いよいよ素案の大詰めなので、委員の皆さんには活発な意見交換をいただきよいものにしていきたい。受け取る側がどう捉えるかという視点で考えるとよいと思う。まず基本目標1は「みんなで」ということでよいか。
委員	同意。
委員	基本目標4は「教育環境の整備」で、基本目標5は「生活環境の整備」なので、教育環境の整備として「すこやか」をイメージしたが、基本目標2で既に使ってしまった。まず他の基本目標との違いも表すことができ、かつ教育環境の整備についてイメージが湧くようなキャッチフレーズが適当だと思う。
会長	だからこそ「のびのび」や「のびやか」という表現が出てきたと思う。 二宮町の教育環境は良い状態にあると思う。小学校3校、中学校2校は他の自治体からみれば学校数が少ないが、互いに連携してコミュニケーションがとれている。あまりに異なることをしているわけではないが、それぞれの地域の特色も大切にしている。このあたりを考慮して、分かりやすいキャッチフレーズにしていければよいと思う。
委員	基本目標4の内容に「心豊かにたくましく生きる力」とあるので「たくましく」とするとインパクトがあるのではないか。これをキャッチフレーズに出来るなら「心豊かにのびやかに生きる力」とカッコ書きの内容を変えてもいい。

発言者	発言要旨
会長	「心豊かにたくましく生きる力」という文言はどこかで使われているのか。
事務局	二宮町教育委員会が使っている文言で、カッコ書きにして使われる文言をそのまま引用した。
会長	教育委員会が使っている文言であれば、「心豊かにたくましく生きる力」の中身だけ変更することはできない。
委員	同じ文言の中にある「豊かに」もいい。
委員	「豊かに」は意味が細分化され、伝えたいことが伝わらないのではないか。
会長	皆さんそれぞれに思いがあり、しぼりきれない。本件については、ここで一旦保留にし、議論すべき大事なところなので、会議の最後にまた戻ってご意見を伺いたいと思う。他にご意見、ご質問はあるか。
委員	基本目標3「【ささえる】特別な配慮を必要とする子ども・子育て家庭への支援」にある個別の配慮であればいいが、「特別な配慮」という言葉に違和感がある。「特別」という言葉が受取り側として差別的と言わないまでも、あまりいい感じがしない。
会長	これは何かで決められた言葉なのだろうか。
委員	文章の中で用いるにはいいかもしれないが、タイトルとして使ってしまうとインパクトが強すぎるように感じるので、「特別」を抜いたりしてはどうか。
会長	確かに「配慮」だけだと行政等では気持ちの部分だけでなく、「特別」をつけるべきで、実際の対応や行動を考える意味で使っているのだと思う。ただし、それを基本目標3のタイトル部分に入れるかどうかということである。
委員	「個別」の配慮としてはどうか。
委員	「特別」という意味は「個別」という意味を内包していると思うが、「特別」というと特に必要な何かが強調されてしまう。実際に「特別な配慮」が必要な子が多くなっているという状況は増えていると思うが、表題としてインパクトのある「特別」という言葉を使うことを容認していいものか。文脈では使っても問題ないと思うが、ここでは「配慮が必要」というだけでもいいと思う。
委員	「配慮」という言葉の意味合いやイメージが問題となる。学校では特別支援教育という言葉を使っていて、学童保育でも「支援を要する子どもを含めた生活づくり」というタイトルで取り組んでいる。「配慮」は周りを気にしているイメージがあると思う。特別な「支援」を必要とする子どもであれば、足りない部分を支えあうような意味合いが伝わるのではないか。「特別な配慮」は大っぴらにできないイメージを感じる。
委員	確かに「配慮」では上から目線の言葉に感じる。「支援」ならば支えあい、助け合うというようなイメージが強いと思う。
委員	「発達に心配のある子ども」という表現も、特別支援教育の中で何か決まった文言なのか。個人的な感覚として「心配」という言葉も引かかる部分ではある。支援ではなく、助けを必要とするものなのかどうか。

発言者	発言要旨
事務局	次世代育成支援行動計画の後期計画では要保護児童の対応という項目で扱ってきた。ただ、グレーゾーンのお子さんも多数いらっしゃるのでは、障がいではないが特別な配慮を必要とするような子どもたちも含む広い意味を持たせた。要保護児童だけでなく、その枠を少し広げた子どもたちも含むと理解していただけるのではないかと考え、「特別」という言葉を使っている。
会長	「発達に心配のある」という文言の修正前は、「発達に遅れがある」という文言だったが、主観的で比較的な表現であったため、良くないと思っていたが、「発達に心配のある」という文言に修正したことは良いことではないかと思う。「特別な配慮」については、専門用語でなければ「特別」を削ってしまってもいいのではないだろうか。
委員	「発達に心配のある」というのは捉え方としては「障がい」の1つで同義ではないのか。それであれば、「発達に心配のある子ども」と「障がいのある子ども」と分ける必要はないと思う。発達障がいや心身障がいは全て「障がい」の範囲だと思うので、特に分ける必要はないと思う。
会長	障がいの解釈の問題だと思う。
委員	タイトルの前段の「障がい」は、身体的に捉えているのに対し、後段は「発達に心配のある」で捉えている。「発達に心配のある」というのも「障がい」のうちだと思う。
委員	障がいを認めたくない親もいる。また、最終的に障がいを認めないまま大人になる子どももいるので、このタイトルに「発達に心配のある」と一言入れてあるのは良いことだと思う。
会長	何かあれば悩んでないで、気軽に相談したり情報を得たりできる町を目指してこの基本目標がある。
委員	ここで「障がい」と言い切ってしまうと、障がいがあることを認め、障がい者認定をされなければサポートの対象外になってしまうのではないか。
委員	「障がい」というレッテルを貼られるのが嫌なのは分かるが、少しでも早く相談をすることが大事だと思う。早く相談をすることで、その子の可能性が広がる。気楽に行ける相談体制を整えてほしい。個人的には高齢出産等そのような子どもが増えることを憂慮している。
会長	基本目標3「特別な配慮」の「特別な」は外すことが出来るようなら外す、「発達に心配がある」は残すということでまとめさせていただいてよろしいか。
委員	了承。
会長	第1章から第3章の部分でご意見があるか。
委員	意見・質問なし。
会長	それでは、第4章施策の展開について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

発言者	発言要旨
委員	<p>35 ページの【具体的事業】「3 一時預かり」の「一時預かりサービスの充実」にある「育児疲れ」は暗い感じがするのでリフレッシュのため、とした方がいい。また、39 ページの【具体的事業】「放課後児童支援員の資質の向上」の事業内容について「遊びを指導」という文言があるが、これは個人的に好きな表現でない。41 ページの【具体的事業】「フォロー体制の充実」にある「心理相談による相談・支援」は「心理相談員による」ではないか。このままの表現だと少し違和感がある。47 ページの【施策の方向】に「地域で安心して暮らせるよう」という文言があるが、具体的事業を確認すると、この文言にリンクするような項目がないのが気になった。</p> <p>また、前回議論したバリアフリーとユニバーサルデザインに関して意見を述べたい。個人的に社会福祉協議会で実施のボランティア大学に参加した際、視覚障がいの方の話を書く場面があった。その方はご自身の持ち時間全てユニバーサルデザインの説明をされた。障がいをもった方にとって「バリアフリー」という言葉自体に差別的な感覚があるようだ。「バリアフリー」とは、「高齢者や障がい者などの生活弱者のために生活に障がいとなる物理的な障壁の削除を行う」とあり、ユニバーサルデザイン条例では、「全ての人を個人として尊重し、思いやりの心をもって助け合う態度を育て、ともに生きる社会の実現と福祉の心を育成する」とある。「バリアフリー」という言葉よりも「ユニバーサルデザイン」としてはどうか。「バリアフリー」という言葉の知名度が高いという理由で「バリアフリー」という言葉を使用する流れとなった。修正して「子育てバリアフリー」と特化しているが、障がいのある方にしてみれば、生活弱者の障壁を削除する「バリアフリー」という言葉を使うよりも、「ユニバーサルデザイン」という言葉の知名度が少しずつ上がってきていることから、最後に用語解説も入れるのであれば「ユニバーサルデザイン」にした方がよいと思う。</p>
会長	<p>まず最初にご意見のあった、35 ページ「育児疲れ」は専門用語でなければ変えられると思う。どのような言葉が適切か。「保護者のリフレッシュ」ということでよいか。</p>
委員	<p>「育児ストレス」はどうか。</p>
事務局	<p>気軽に利用いただけるのが一時預かりサービスの今後の1つの目的になるので、確かにリフレッシュとした方が誰に対しても開かれていることが伝わると思う。</p>
会長	<p>次に 39 ページ「遊びを指導できる」という文言について意見を伺いたい。</p>
委員	<p>学童保育の指導員のガイドラインの中に、「遊びを指導する」と書いてある。ただ、決まった指導要領はないので、具体的にはそれぞれの学童保育毎に考えて取り組んでいる。</p>
事務局	<p>変えれば、遊びを通して成長を見守る、よい方向へ導く、というような文言に出来るのではないか。その方が支援員の役割や重要性がより伝わるようになると思う。</p>

発言者	発言要旨
事務局	放課後児童支援員は今後資格の必要な仕事になる。そうするとその中に遊びと指導と明確な位置づけがあると思う。遊びは子ども達が発想するもので、指導するものではないという思いがあつてのご意見だったと思う。生活全体をみている中に「遊び」もあるという意味で指導とは全てをお膳立てするものでないが、「のびのび」の話であつたが、好き勝手をしていいものではなく、ある程度の指導も集団生活の中では必要となってくるかと思う。文言の再検討は事務局にお任せいただきたい。
委員	以前、広報紙の「放課後子ども教室」に関する記事にもこの文言があつた。文言としてあることは理解しているが、せめて母親たちの見えるところでは別の言い方を考えてもよいのではないかと思い、今回意見としてお伝えした。
委員	同じ 39 ページ「放課後児童支援員の資質の向上」の事業内容について、「放課後児童支援員等」とある。この「等」は何を想定しているか確認したい。来年 4 月 1 日からの資格制で、5 年以内に資格取得をするものだが、資格が取れなかったとしても、補助員として携われるのだが、そのことを指しているのか。
事務局	「等」にはまだ資格を持っていない方、補助員として携わっている方を含めている。
会長	では、41 ページの「心理相談による相談・支援」を「心理相談員による相談・支援」とすべきかどうかの議論に移りたい。
事務局	「心理相談」は心理相談員だけが行っているわけではない。
会長	「心理相談」は専門用語で、ある程度の知識のある方により相談を受けることではないのか。
事務局	「心理相談」という場、いわゆる「心理相談会」という場面で「相談・支援を行う」という意味合いで用いた。確かに、心理相談であるから当然相談をすることになるので、「相談」を削除し、心理相談という場だと分かるよう「心理相談における支援を実施し」という形にしたい。
会長	事務局の方で整理していただきたい。それでは 47 ページの【施策の方向】に「地域で安心して暮らせるよう」とあるが具体的事業とリンクしていないというご指摘について検討したい。
事務局	事業を実施することが地域で安心して暮らしていくことにつながっていくという意味合いでこのような表現にしている。ここでは地域の方々が協力して、というよりも、地域にある資源をうまく活用してその子が成長していけるような環境を整えようという意味合いだ。
委員	ここでいう「地域」が分かりづらい。
事務局	例えば、町外の特別支援学校に通うのではなく、町内の学校で受け入れるということだ。

発言者	発言要旨
会長	<p>ここでは就学前の子どもも含むことから、小学校区を1つの地域と考えてもよい。少なくとも「二宮町」というくくりよりも狭い範囲を「地域」といつているのではないか。</p> <p>51 ページ基本目標5に関して、第3回会議で「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」という用語について検討し、この度すべて「バリアフリー」という用語に統一してもらっている。ただ、「ユニバーサルデザイン」が進むべき方向であるのならば、どこかに一言記述があってもよい。</p>
委員	<p>二宮町の上位計画に、例えば今後図書館の書棚の高さを車いす対応に低くしたりといった「ユニバーサルデザイン」の街づくりを進めるような構想があるのであれば、そちらに揃えた形がよいかと思う。ただ、段差の解消や子ども連れが使いやすいトイレの整備といった限定されてところであるのならば、「バリアフリー」でもよいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>「バリアフリー」は施設・基盤整備等がイメージされ、「ユニバーサルデザイン」は蛇口や取手などの1つひとつの使うものまで含まれる。今回はハード面を整備しようということであったので「バリアフリー」と統一した方が分かりやすいかと思う。</p>
事務局	<p>総合計画の中でも「バリアフリー」という言葉を使っており、「ユニバーサルデザイン」という言葉は直接的には使っていない。</p>
事務局	<p>国の指針にも「心のバリアフリー」と謳われている箇所がある。</p>
会長	<p>ご指摘には「バリアフリー」が上から目線のような印象を持たれるのではないかという懸念があったかと思う。しかし、今回はそのような意識でなく、わかりやすいように「バリアフリー」という言葉を使っていることをご理解いただいた上で、また更にいい環境にしていくにはどのようにすればよいのか考えていきたい。</p>
事務局	<p>「ユニバーサルデザイン」という言葉はとってしまったが、【施策の方向】2行目に「全ての人々が安全・安心に」という一言は残している。</p>
会長	<p>子ども・子育て世代にも優しい町は、高齢者、障がい者にも優しい町だと思う。</p>
委員	<p>結局それが「ユニバーサルデザイン」ではないか。</p>
委員	<p>「ユニバーサルデザイン」とすると範囲も広く、いろいろな思想も入ってくる。もっと具体的にするには「バリアフリー」がよいかと思う。</p>
会長	<p>そういった前提もあって、「バリアフリー化」への取り組みがあり、「子育てバリアフリー」の推進につながっている。</p>
委員	<p>「子育て」を付加したバリアフリーというものは、良い表現だと思う</p>
会長	<p>「バリアフリー」の用語解説があるので、「バリアフリー」を発展させた考え方に「ユニバーサルデザイン」があることを加えたらどうか。事務局に検討願いたい。他にご意見やご質問はあるか。</p>

発言者	発言要旨
委員	虐待等に対してはアンテナを敏感にしておいて欲しい。また、児童相談所が話は聞いていながら成果を上げてないというような話も聞く。改めて役所仕事のようになってはいけないとしっかり考えてほしい。
会長	まさに、基本目標3の部分である。
委員	全体的なことであるが「等」が多用されすぎているように感じる。
会長	たくさんの意味合いのことを短い文章で表現しようとするとうなるのではないか。また事務局にはこの見直しをお願いしたい。それでは第5章以降についてご意見・ご質問を伺っていききたい。
委員	65 ページ4行目、幼稚園で過ごす時間は「教育時間」という言葉でよいか。また、82 ページ「問 15-1 利用している事業」について、二宮町にない事業も項目としてある。これでは利用率が低いのか、そもそも二宮町にないのかを分からずにこの表を見る人がいるのではないか。誤解を招くので実施していない事業については項目を削除してもよいのではないか。
事務局	まず、幼稚園は「教育」ということになっている。またアンケートの問15の設問は国からの指定になっているので、項目を変更することが出来ない。また設問にある以上、0であっても回答結果をすべて示さなければならないので、このような表になっている。
委員	非常に低い割合であるから必要ないと思われるのではないか。もしも町内にあるのなら使いたいと思っている人もいると思う。説明文の内容だと誤解を招いてしまいそうだ。
事務局	回答結果は変えられないが、説明文2行目「一方で、その他の事業…となります」の1行を削除してもよいかと思う。
会長	その1行は、表の結果を述べているだけなので、削除しても支障はないと思う。
委員	97 ページ用語解説について、「放課後児童クラブ」の項目の下にあるカッコ書きの「放課後健全育成事業」は「放課後 <u>児童</u> 健全育成事業」に修正をお願いしたい。
会長	事務局には修正をお願いする。それでは先ほど保留としていた、29 ページの基本目標4のキャッチフレーズについて、大まかな方向性だけでも決めておきたい。
委員	基本目標4の表題の中に「健やかな」とあるので、こちらを「すこやか」として基本目標2を「のびやか」とか「のびのび」にしてはどうか。
委員	基本目標2にも「健やかな成長の実現に向け」と「すこやか」が表題の説明に入っている。
委員	基本目標4は「たくましく」が力強くよい。

発言者	発言要旨
事務局	基本目標4は教育委員会が主の分野となるので、今回いただいた意見をもって教育委員会の担当者と相談し、事務局として調整して決定したものを町民意見募集にかけさせていただきたい。
会長	沢山のご意見をいただき、この場で決定することは難しいので、基本目標4のキャッチフレーズは事務局と教育委員会で調整をいただきたいと思う。
(2) 子ども・子育て支援事業計画の概要版(案)のイメージについて	
会長	こちらはまだ検討段階とのことなので、このあたりは事務局にお任せするようになりたいと思う。
(3) 保育料について	
委員	意見等なし
(4) その他	
事務局	今回のご意見を基に事務局で内容を詰めていきたい。次回会議は2月頃を予定している。
会長	委員の皆さんから何かあるか。なければ本日の会議はこれで終了としたい。
4 閉会	